

3. 年齢別人口

(1)年齢構成の推移

ますます進む人口の高齢化

平成 22 年の人口を年齢（3 区分）別にみると、0～14 歳の年少人口が 105.4 千人、15～64 歳の生産年齢人口が 468.4 千人、65 歳以上の老年人口が 160.7 千人で、全人口に占める割合はそれぞれ、14.4%、63.8%、21.9%となっている。

平成 17 年の年齢 3 区分構成と比較すると、年少人口が△0.5 ポイント、生産年齢人口は、△2.6 ポイントと低くなった反面、老年人口は 3.4 ポイント高くなった。

昭和 50 年度以降の年齢 3 区分別割合の推移をみると、この 35 年の間に年少人口は△8.7 ポイントとなり、老年人口は 14.1 ポイントの上昇となり、ますます老年人口の割合が大きくなった。

【表 1 2】

老年化指数は昭和 50 年の 4.5 倍

表 13 の平成 22 年の年齢構成指数をみると、年少人口指数は 22.5、老年人口指数は 34.3、老年化指数は 152.5 となっている。

年少人口指数及び老年人口指数は、生産年齢人口に対する扶養負担度を示す数値として、老年化指数は人口老齢化の程度を測るものとして使われているが、熊本市を全国平均（年少人口指数 20.7、老年人口指数 36.1、老年化指数 174.0）と比較すると、年少人口指数は熊本市が 1.8 高いが、老年人口指数は 1.8、老年化指数は 21.5 低くなっており全国平均より熊本市の年少人口及び生産年齢人口が多いことがわかる。

しかし、人口の高齢化が急速に進行しており、昭和 50 年と比べると老年人口指数は約 3.0 倍、老年化指数は約 4.5 倍となっている。【表 1 3】

表12 年齢(3区分)構成の推移

年次	実数 (人)				構成比 (%)		
	総数	0～14歳	15～64歳	65歳以上	0～14歳	15～64歳	65歳以上
昭和50年	488,166	113,008	336,915	38,243	23.1	69.0	7.8
男	231,188	57,959	157,407	15,822	25.1	68.1	6.8
女	256,978	55,049	179,508	22,421	21.4	69.9	8.7
昭和55年	525,662	118,429	360,945	46,154	22.5	68.7	8.8
男	251,011	60,748	171,351	18,832	24.2	68.3	7.5
女	274,651	57,681	189,594	27,322	21.0	69.0	9.9
昭和60年	555,719	119,236	381,518	54,865	21.5	68.7	9.9
男	265,037	61,406	181,967	21,604	23.2	68.7	8.2
女	290,682	57,830	199,551	33,261	19.9	68.6	11.4
平成2年	579,306	111,981	399,413	66,003	19.3	68.9	11.4
男	275,424	57,664	191,115	25,461	20.9	69.4	9.2
女	303,882	54,317	208,298	40,542	17.9	68.5	13.3
平成7年	650,341	111,558	448,129	89,951	17.2	68.9	13.8
男	310,118	57,284	217,048	35,334	18.5	70.0	11.4
女	340,223	54,274	231,081	54,617	16.0	67.9	16.1
平成12年	662,012	104,473	449,211	107,931	15.8	67.9	16.3
男	314,455	53,480	217,442	43,293	17.0	69.1	13.8
女	347,557	50,993	231,769	64,638	14.7	66.7	18.6
平成17年	669,603	99,881	444,754	123,878	14.9	66.4	18.5
男	316,048	51,147	214,409	49,854	16.2	67.8	15.8
女	353,555	48,734	230,345	74,024	13.8	65.2	20.9
平成22年	734,474	105,410	468,350	160,714	14.4	63.8	21.9
男	344,291	53,747	224,768	65,776	15.6	65.3	19.1
女	390,183	51,663	243,582	94,938	13.2	62.4	24.3

第2部 人口の概要

図 13

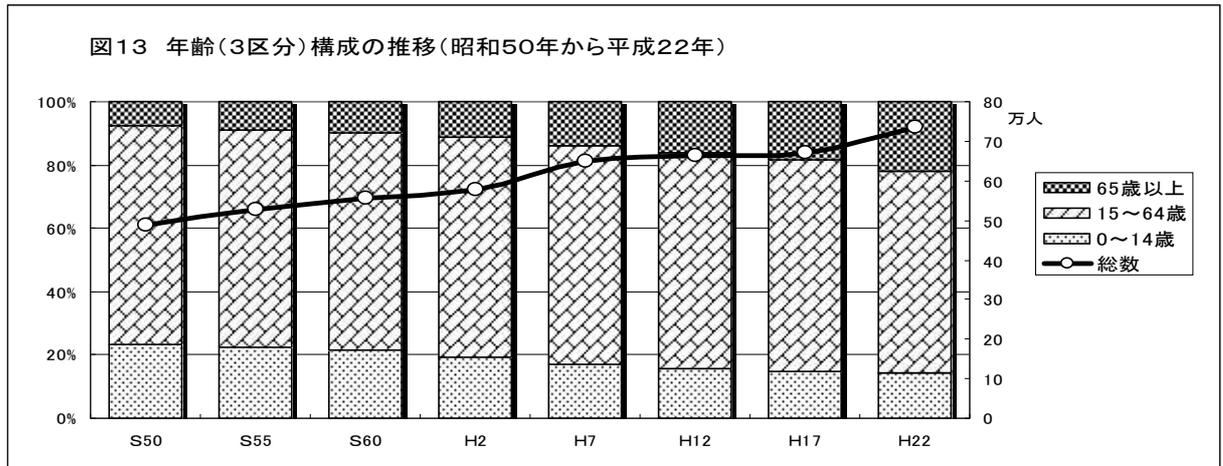


表13 少年、老年人口指標及び老年化指数の推移

(当時人口)

年次	年少人口指数①			老年人口指数②			老年化指数③		
	総数	男	女	総数	男	女	総数	男	女
昭和50年	33.5	36.8	30.7	11.4	10.1	12.5	33.8	27.3	40.7
昭和55年	32.8	35.5	30.4	12.8	11.0	14.4	39.0	31.0	47.4
昭和60年	31.3	33.7	29.0	14.4	14.4	16.7	46.0	35.2	57.5
平成2年	28.0	30.2	26.1	16.5	13.3	19.5	58.9	44.2	74.6
平成7年	24.9	26.4	23.5	20.1	16.3	23.6	80.6	61.7	100.6
平成12年	23.3	24.6	22.0	24.0	19.9	27.9	103.3	81.0	126.8
平成17年	22.5	23.9	21.2	27.9	23.3	32.1	124.2	97.5	151.4
平成22年	22.5	23.9	21.2	34.3	29.3	39.0	152.5	122.4	183.8

注) ①=年少人口÷生産人口×100 (生産年齢人口の年少者扶養負担度を示す指標)

②=老年人口÷生産人口×100 (生産年齢人口の老人扶養負担度を示す指標)

③=老年人口÷年少人口×100 (人口年齢化の程度を測る指標)

(2) 平均年齢

熊本市の平均年齢をみると、43.5歳(男41.6歳、女45.1歳)である。これを全国平均45.0歳(男43.4歳、女46.4歳)及び熊本県平均46.2歳(男44.2歳、女48.1歳)と比べると、いずれも下回っている。

年齢中位数をみてみると、熊本市は43.2歳(男41.2歳、女45.0歳)で全国45.0歳(男43.3歳、女46.7歳)、熊本県47.8歳(男45.5歳、女49.9歳)で、同じくいずれも下回っている。

(3) 人口ピラミッド

図14-1、図14-2は、それぞれ昭和40年と平成22年の熊本市の人口の年齢構成を図に示した「人口ピラミッド」である。図14-2を見ると50歳以上では、釣鐘型になっているが、それより下の年齢は複雑な形をしており、第1次ベビーブーム、第2次ベビーブームの年齢層で突出している。

図14-1、図14-2を比較すると、昭和40年のものは、釣鐘型をしているが、平成22年のものを見ると少子高齢化によりつぼ型へと変化していることがわかる。【図14-1、図14-2】

